

令和2年2月3日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 公明党

代表者名 増崎 俊宏



会派の（調査研究（研修））報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	令和2年1月27日（月）
2 調査研究または 研修の場所	TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター （東京都中央区八重洲1-2-16 TGビル）
3 調査研究事項 または研修名	政策能力向上研修in東京 1）10:00～12:30 マーケティング視点を活かした議員活動 ～職員や有権者とのコミュニケーション&情報発信～ 2）14:00～16:30 質問作成のために押さえておくべき基礎知識 ～質問力アップのための考え方とコツ～
4 参加者氏名 （1名）	大久保昌代
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



【概 要】

研修会名： 政策能力向上研修 in 東京

講 師： 永田潤子氏（大阪市立大学大学院、都市経営研究科 教授）

1) 10:00~12:30 マーケティング視点を活かした議員活動

～職員や有権者とのコミュニケーション&情報発信～

1、 マーケティングの考え方

ポスティングチラシは読むか捨てるかは1秒、せいぜい3秒で判断されてしまう。後で読もうと思ってもらえるには、「この人ちょっと面白そう」といった、興味、関心を与えるための情報発信の仕方が大事である。共感があって、はじめて人の心は動く。

2、 男性脳と女性脳からの特徴

男性は聞くより見るのが得意で、女性の方が触れ合いを大事にする。総合的に女性の方が相手のことを細かく観察できる。女性がしゃべる目的はしゃべるために他ならないが、男性は解決策を求められていると思ってしまう。男性は事実やモノ、女性は感覚やイメージを優先しがちである。理解と共感を得るためには、男性、女性どちらに対して話すかによって話すポイントが変わってくる。

3、 場の設定で感情は影響を受ける

座る位置によって感情は影響を受け、正面に向かい合えば理性の空間となり、横並びに座れば情緒の空間に、同じ方向に並べばスクール形式の空間になる。模造紙を壁に貼ったり、音楽を流したり、飲食物を用意することで演出できる。

4、 共感のコミュニケーション

上手に質問を使う。認識、経験、解釈、行動、学習理解などに対する問いかけをしていくと良い。「〇〇という言葉から何を思い浮かべますか?」「〇〇について、どんな経験をしたことがありますか?」「それは何を意味しているのでしょうか?」「〇〇について、もし何かやれることがあれば、何でしょうか?」「あなたは、今日の学びを何に役立てていきますか?」など。

5、 伝わる議会報告チラシ

人の視線はZに動く。横書きは左上、縦書きは右上に最初に目が行く。横書きの場合、伝えたいキャッチコピーが左上に行くことが大事。文中では質問が大事。人は質問を読むと答えが知りたくなり、自分に問いかけられている気持ちになる。人の気配が目止める。写真やイラストなど人物が載っている方が手に取ってもらえる。

2) 14:00～16:30 質問作成のために押さえておくべき基礎知識

～質問力アップのための考え方とコツ～

1、 政策の課題の見つけ方

政策とは「現状」と「あるべき姿」との差を埋めるために、なされるもの。データやインタビューなどで今の状況を把握し、地域課題の見える化で、地域のビジョンを描く。

2、 議員パワーを活かす

行政から必要な資料などを上手に入手する。データは最低でも10年分が必要。

3、 目的別の質問の作り方

良い質問とは、相手に気づかせる、決断を迫る、応援すること。自分の知らない情報を得たり、疑問を解くといった質問は事前に聞いておけばいいのであって、良い質問ではない。事前準備、先を読む力、相手の答えを想定することが大事である。

4、 議員個人の専門性を有する

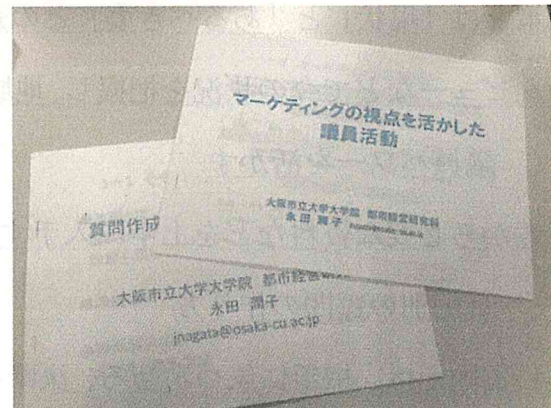
特定の政策分野に関する高い専門的知見を有し、地域の政策課題を的確に把握し、必要な情報収集を行いながら、議会における政策提言、立案を行う。

所感

理解と共感のコミュニケーションを上手に使うことや、市民に伝えたいことが伝わりやすい議会報告チラシの作成アドバイス等、とても分かりやすく教えて頂きました。質問作成のために基本を押さえ、スキルアップしていくこと、良い仕事をするためには勉強をしっかりとっていくことが大事であり、肝に銘じて頑張りたいと思いました。



セミナー会場



テキスト



講師の永田潤子氏と